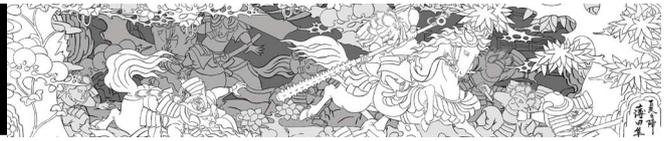


宮本地車



第13回「神々の活躍～日本神話～ その一」

神話物の彫物は地車の屋根周りに配されることが多く、宮本地車も大屋根小屋根の車板と小屋虹梁、計六つの彫物があります。物語として知っているものもあれば、余り若い世代の方にはなじみの無いものもあるのでは無いでしょうか。我が宮本地車に施された日本神話の彫物のお話を分かりやすく解説したいと思います。

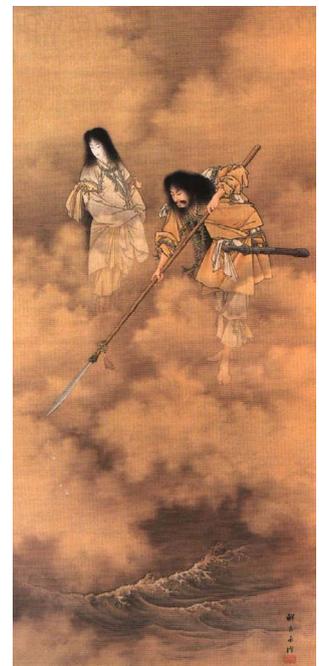
時期	題名	登場する神々	地車彫物の場所
神武前期	天乃巖戸	あまてらすおおみかみ 天照大御神・天宇受賣命・天手力男神など	小屋根車板
神武前期	櫛稲田姫	すさのおのみこと 素戔鳴尊・櫛稲田姫・足名椎・手名椎	大屋根正面小屋虹梁
神武前期	大蛇退治	すさのおのみこと 素戔鳴尊	大屋根正面車板
神武前期	天孫降臨	にぎのみこと 瓊瓊杵尊・猿田彦神・天宇受賣命など	小屋根小屋虹梁
景行27年	熊襲討伐	おうすのみこと 小碓命(後の日本武尊)・熊襲建	大屋根後面小屋虹梁
景行40年	草薙剣	やまとたけるのみこと 日本武尊	大屋根後面車板

上の表に宮本地車の神話題材の彫物を時代順に並べてみました。「神武前期」は神武天皇が即位される前です。神武天皇が即位されたのが紀元前660年の2月11日、現在の建国記念の日はここから来ています。「景行」としたのは年号ではなく景行天皇の在位期間です。ちなみに景行天皇在位期間は西暦71年から130年の間です。

素戔鳴尊は伊邪那岐から最後に生まれ落ちた三柱の神の末っ子で、姉は天照大御神(太陽の神様)、兄は月夜見尊(月の神様)です。瓊瓊杵尊は天照大御神の孫で神武天皇の曾祖父です。日本武尊は初代神武天皇から12代目にあたる景行天皇の子で14代天皇仲哀天皇の父となっています。

これらは日本という国の成り立ちなどの物語ですが、奈良時代に編纂された古事記や日本書紀によるものです。神々の物語ということで大層堅いお話のように思えますが日本の神々は意外と現代の人間くさいようなところもあって面白い話がたくさんあります。

国や神々を産んだ神イザナギ・イザナミですが、妻のイザナミは火の神を産んだ時の火傷が元で亡くなってしまいます。妻を忘れられないイザナギは黄泉の国(死者の国)へと妻を訪ねますが変わり果てた妻の姿に恐れをなして逃げ帰ります。イザナギは汚れを落とすために禊を行いますそのときに生まれたのがアマテラスを初めとする三柱でした。末のスサノオは母に会いたいと泣き叫びました。これを怒ったイザナギはスサノオを追放してしまいます。これよりスサノオの波乱万丈の物語が始まります。(次号に続く)



天沼矛をもって大地を造らんとする伊邪那岐・伊邪那美夫婦。天照大御神、素戔鳴尊らの親にあたるが実は二神が生まれる前に離縁している。